

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-202	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	文国 050-901	文学国語 改訂版		

1. 編修の基本方針

- ・文学的な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、言語文化の通時的・共時的な広がりへの理解や、自らのものの見方、感じ方、考え方を深め、総合的な国語力をはぐくむことができるよう配慮する。
- ・思考力や想像力、他者に共感する力を伸ばし、創造的に考える力・他者との関わりの中で伝え合う力を育むとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度と、多様な文化や伝統に対する関心を養うことができるよう配慮する。
- ・教育基本法第2条に示された教育目標への対応に配慮しつつ、近代から現代まで、さまざまなジャンル・内容の教材を幅広く取り上げて生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をとおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第Ⅰ部 1 随想（一） 文学と出会う “ほんとうの世界”を見せてくれるもの／十八歳の選択／ [書く] 体験にもとづいて書く	<ul style="list-style-type: none"> ・文学に対する考えを深め、興味を広げることをねらいとし、文学とは何か、文学と出会う意義とは何かを考察した「“ほんとうの世界”を見せてくれるもの」、作者が自身の進路選択について振り返る「十八歳の選択」を収録した。(第1・2・3号) ・自分自身の選択の体験や、その選択に対する思いを書くことをねらいとし、「体験にもとづいて書く」を設けた。(第1・2号) 	pp. 9-24
2 小説（一） 展開をとらえる 鍋セット／旅する本／ [展開] 小説とは何か／ [書く] 構成を考えて書く	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の展開や物語の構造をとらえ、作品をとおして日常的なできごとや体験の意味を振り返ることをねらいとし、一人暮らしを始める娘の母との思い出を描いた「鍋セット」、さまざまな人と本との出会いを描く「旅する本」を収録した。(第1・2・3・5号) ・小説とはどのようなものかを考察することをねらいとし、小説の定義や意義を論じた「[展開] 小説とは何か」を収録した。(第1・3号) ・伝えたいことを印象的に書くため、文章の構成を工夫することをねらいとし、「構成を考えて書く」を設けた。(第1号) 	pp. 25-58
3 小説（二） 翻案の世界 山月記／[展開] 人虎伝	<ul style="list-style-type: none"> ・文体の特徴や語りの構造をとらえ、登場人物の心情や境遇を理解することをねらいとし、「山月記」を収録した。(第1・2・3号) ・「山月記」と比較して相違点を考察したり、ほかの翻案作品について調べたりすることをねらいとし、「人虎伝」を収録した。(第1・5号) 	pp.59-78
4 詩 韻文を味わう 竹／小景異情／ きみの呼びかけに／永訣の朝／ [展開]「間」について／	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の形式やリズムを味わい、韻文の表現や効果を理解することをねらいとし、詩4編を収録した。(第1・2・5号) ・韻文の表現やその効果を考え、理解をさらに深めることをねらいとし、詩における間の工夫について論じた「[展開]「間」について」を収録した。(第1・5号) 	pp.79-98
5 小説（三） 寓話を楽しむ 神様／山椒魚／ [書く] 物語の続きを創作する	<ul style="list-style-type: none"> ・構成や表現効果に着目し、寓意的な表現の意味を考えることをねらいとし、「くま」と「わたし」の心の交流を描いた「神様」、岩屋に閉じ込められた山椒魚と蛙の姿を描いた「山椒魚」を収録した。(第1・4号) ・作品をもとにして想像した内容を整理し、物語の続きを創作することをねらいとして、「物語の続きを創作する」を設けた。(第1・2号) 	pp.99-124

<p>6 随想（二） 翻訳と文学</p> <p>月の誤訳／寝ぼけた話／ [書く] 訳詩を作る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言葉に対する感じ方や考え方をとらえ、翻訳について理解を深めて、言語文化に対する考えを深めることをねらいとし、日本語とドイツ語の翻訳の際の工夫について論じる「月の誤訳」、言語による呼称とイメージについて述べる「寝ぼけた話」を収録した。(第1・5号) 語句の選び方や表現を工夫して書くことをねらいとし、「訳詩を作る」を設けた。(第1・2・5号) 	pp. 125-138
<p>7 小説（四） 心情をとらえる</p> <p>こころ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人物関係や人物の境遇と心情をとらえ、作品の主題について解釈を深めることをねらいとし、「こころ」を収録した。(第1・5号) 	pp. 139-178
<p>8 評論 伝統と美意識</p> <p>陰翳礼讃／闇と光</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統的な価値観やその変化について考えを深めることをねらいとし、日本の伝統的な明かりによって生じる闇や陰翳の中に美を見出す「陰翳礼讃」、日本と西洋の陰翳のとらえ方の違いをアニメーション監督が語る「闇と光」を収録した。(第1・5号) 	pp. 179-194
<p>9 小説（五） 文学の語り手</p> <p>巨人の接待／檸檬／ [書く] 視点を考えて書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語り手の役割を意識しながら、登場人物の描写を的確にとらえることをねらいとし、海外から来日した作家と通訳の交流を描く「巨人の接待」、えたいの知れない不吉な塊にさいなまれる「私」を描いた「檸檬」を収録した。(第1・2・5号) 語り手の視点を意識して書くことをねらいとし、「視点を考えて書く」を設けた。(第1・5号) 	pp. 195-236
<p>【第Ⅱ部】</p> <p>1 随想（一） 言葉を見つめる</p> <p>言葉の池をつなぐ／ ただ存在するだけ運動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の思索の展開をとらえ、比喩や象徴を用いた表現への考えを深めることをねらいとし、体験と言葉の関係について考える「言葉の池をつなぐ」、存在することについて考えをめぐらせる「ただ存在するだけ運動」を収録した。(第1・2・3号) 	pp. 237-248
<p>2 小説（一） 他者と出会う</p> <p>桔梗くんへ／クリーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文体の特徴とその効果について理解を深め、語り手の視点から見た「他者」について解釈を深めることをねらいとし、初恋の人への手紙という形式をとった「桔梗くんへ」、「ぼく」が過去に経験した奇妙な出来事を語る「クリーム」を収録した。(第1・2・3号) 	pp. 249-276
<p>3 小説（二） 寓意と象徴</p> <p>赤い繭／掟の門</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表現の特徴をとらえ、その効果や意味を考えること、寓意による表現方法の批評性について理解を深めることをねらいとし、自分の家を探してさまよう男を象徴的に描く「赤い繭」、門に入ることを阻まれる男を描く「掟の門」を収録した。(第1・3号) 	pp. 277-292
<p>4 随想（二） 情景を読む</p> <p>となり町の山車のように／ 鹿を追いかけて／ [展開] かもしか／ [書く] キーワードを決めて書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章の展開に即した情景描写に着目し、筆者の感じ方・考え方をとらえることをねらいとし、筆者の過去のエピソードを「列車」というキーワードで関連づけ、思索を展開する「となり町の山車のように」、幼い日の鹿との出会いや、「鹿」という詩から想起される思いをつづった「鹿を追いかけて」を収録した。(第1・4・5号) 「鹿を追いかけて」については、同じ体験を詩という別の表現形式で作品化している「かもしか」を「展開」として収録し、あわせて読むことで理解を深められるようにした。(第1・4号) キーワードを決め、材料を収集・整理して書くことをねらいとし、「キーワードを決めて書く」を設けた。(第1・2号) 	pp. 293-316
<p>5 小説（三） 文体を味わう</p> <p>美神／待つ／ [書く] 文体を工夫して書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 舞台設定や時代背景をふまえて読むこと、文体の特徴に着目しながらその効果を考えることをねらいとし、R博士と女神像との秘密を描いた「美神」、車で何かを待ち続ける女性を描いた「待つ」を収録した。(第1・3・5号) 文体を意識し、言葉の選び方や表現を工夫して書くことをねらいとし、「文体を工夫して書く」を設けた。(第1・2号) 	pp. 317-336
<p>6 短歌・俳句 定型のもつ魅力</p> <p>短歌 十三首／俳句 十五句／ [展開] 共感と驚異／ [書く] 情景を短歌・俳句で表現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 短歌、俳句の形式やリズムを味わい、表現技法を理解することをねらいとし、短歌13首、俳句15句を収録した。(第1・2・5号) 韻文の表現やその効果を考え、理解をより深めることをねらいとし、短歌の表現の工夫について論じた「[展開] 共感と驚異」を収録した。(第1・5号) 短歌、俳句の特徴をふまえて、情景を思い描き、短歌や俳句を詠むことをねらいとし、「情景を短歌・俳句で表現する」を設けた。(第1・2・4号) 	pp. 337-348

<p>7 評論 古典と日本文化</p> <p>和歌の思想／「遊び」の伝統／ [展開] 古典の中の「遊び」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古今東西の言語文化や、日本の伝統的な美意識や感性についての理解を深めることをねらいとし、日本の詩歌の歴史と特徴を論じた「和歌の思想」、中古・中世の「遊び」と日本文化について述べた『『遊び』の伝統』を収録した。(第1・3・5号) ・『『遊び』の伝統』については、本文中で取り上げられている日本の古典文学の原文を「[展開] 古典の中の『遊び』」として収録し、あわせて読むことで理解を深められるようにした。(第1・3・5号) 	<p>pp.349-368</p>
<p>8 小説(四) 時代と文学</p> <p>舞姫／雨傘</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時代背景や舞台設定の意味について考え、登場人物の境遇と心情の関係をとらえることをねらいとし、ドイツに留学した青年の苦悩を描いた「舞姫」、少年と少女の交流を描いた「雨傘」を収録した。(第1・3・5号) 	<p>pp.369-408</p>
<p>9 戯曲 演劇と文学</p> <p>生き残ってしまった者の悲しみと想い／ 父と暮せば(抜粋)／ [書く] 物語を戯曲化する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戯曲の形式をとらえ、表現の特徴を味わいつつ、作品の主題について解釈を深めることをねらいとし、「生き残ってしまった者の悲しみと想い」と、戯曲「父と暮せば(抜粋)」を収録した。(第1・3・5号) ・戯曲の特徴を理解し、表現を工夫して戯曲を書くことをねらいとし、「物語を戯曲化する」を設けた。(第1・2号) 	<p>pp.409-428</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点

- ・単元の内容やテーマについての理解を深めるコラム「文学の扉」を11本設け、文学に関するさまざまな知識を身につけられるよう配慮した。さらに、同コラム内には単元やコラムの内容に関連した書籍を紹介する「広がる読書」を設け、読書に親しむ態度を育成できるよう工夫した。
- ・文学的な文章を豊かに読むための視点を紹介するコラム「文学を読むために」を単元の内容やテーマに関連づけて8本設け、「読むこと」の資質・能力の育成に資するよう配慮した。
- ・読書への意欲を喚起するよう、各教材に「著作案内」を設置した。
- ・目次の後に、「この教科書で身につく力」を掲載し、「書くこと」「読むこと」の観点ごとにねらいとする資質・能力を明示し、確かな学力を身につけることができるよう配慮した。
- ・付録として「日本近現代文学史年表」と、文学で使われる語句や表現について解説した「文学に生きる言葉」を設け、文学的な文章を読んだり、自分で表現したりする際に役立つよう工夫した。
- ・各教材やコラムの設問のうち、主体的にテーマを設定して、調べたり考えを深めたりする探究的な学習活動に「探究」のマークを付し、探究的な活動の際に役立つよう工夫した。
- ・巻頭口絵として、探究的な活動のヒントを示す「文学の世界を探究しよう」を位置づけ、文学への興味を喚起しつつ探究的な活動につなげることができるよう配慮した。
- ・巻末図録として、「作品の中の動物・植物」「『山月記』の世界」「『父と暮せば』の世界」「『舞姫』の世界」「『こころ』の世界」を設け、教材の学習の際に参照できる図版を豊富に掲載した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、担当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-202	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	文国 050-901	文学国語 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●基本方針

- ・文学的な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、言語文化の通時的・共時的な広がりへの理解や、自らのものの見方、感じ方、考え方を深め、総合的な国語力をはぐくむことができるよう配慮する。
- ・思考力や想像力、他者に共感する力を伸ばし、創造的に考える力・他者との関わりの中で伝え合う力を育むとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度と、多様な文化や伝統に対する関心を養うことができるよう配慮する。
- ・学習指導要領に示された教育目標への対応に配慮しつつ、近代から現代まで、さまざまなジャンル・内容の教材を幅広く取り上げて生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をとおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

●構成

- ・学習上の便宜を考慮して2部構成とした。単元構成は教材のジャンルに配慮しつつ、各単元のねらいにもとづいた編成とした。
- ・比べ読みのための教材を、「展開」として6箇所にて設け、教材の理解をさらに深められるよう工夫した。
- ・「書く」を9箇所にて設け、課題に沿って文学的な文章を書く活動に取り組めるよう工夫した。また、書く活動の参考となるよう、「名文案内」としてさまざまな作品を紹介した。

●教材選択にあたっての配慮

- ・教材は、評価の定まっている基本的な作品や、現代の高校生が読むに値するテーマを追求した新鮮な作品、我が国の伝統的な言語文化への関心を深める作品をバランスよく配置した。
- ・小説、随想、評論、詩、短歌、俳句、戯曲、翻訳など多様な表現形式の作品を取り上げた。

●教材化の工夫

〈ねらいとする資質・能力の明確化〉

- ・単元扉に「単元のねらい」、教材の冒頭に「目標」を掲げ、学習内容を明確化できるようにした。
- ・教材中の「脚問」をとおして、その教材で身につけたい基礎的な読解力を養い、その力をもとに、教材全体の理解力を測る「学習のポイント」に取り組む構成とし、着実に学習の定着を図れるようにした。
- ・漢字・語彙の学習に資するよう、漢字の読み替えや同音異義語、対義語などの情報も充実させた。

〈主体的な学習と読書への意欲の喚起〉

- ・生涯を通じた読書生活の充実に配慮し、各教材に「著作文案内」を配し、読書への意欲を喚起するようにした。
- ・主体的にテーマを設定して、調べたり考えを深めたりする探究的な学習活動に「探究」のマークを付した。
- ・教材化にあたっては、生徒の興味・関心、学習意欲を喚起する工夫を施すとともに、学習の参考となる写真や図版などを豊富に提示した。

●コラム・付録の充実

- ・単元の内容やテーマについての理解を深めるコラム「文学の扉」を11本設け、文学に関するさまざまな知識を身につけられるよう配慮した。さらに、同コラム内には単元やコラムの内容に関連する書籍を紹介する「広がる読書」を設け、読書に親しむ態度を育成できるよう工夫した。
- ・文学的な文章を豊かに読むための視点を紹介するコラム「文学を読むために」を単元の内容やテーマに関連づけて8本設け、「読むこと」の資質・能力の育成に資するよう配慮した。
- ・付録として、「日本近現代文学史年表」「文学に生きる言葉」を設け、文学的な文章を読んだり、自分で表現したりする際に役立つよう工夫した。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容																該当箇所	配当 時数											
	知識及び技能				思考力、判断力、表現力等																								
					A 書くこと						B 読むこと																		
	(1)		(2)		(1)		(2)		(1)			(2)																	
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ									
第Ⅱ部																													
1 随想(一) 言葉を見つめる	言葉の池をつなぐ	○	○	○	○	○	○											○										p. 237 ～248	A:0 B:2 計2
	ただ存在するだけ運動	○	○	○	○	○	○											○											
2 小説(一) 他者と出会う	桔梗くんへ	○	○	○	○	○	○											○	○									p. 249 ～276	A:0 B:10 計10
	クリーム	○	○	○	○	○	○											○	○										
	〈文学の扉〉現代日本文学の魅力						○	○										○											
3 小説(二) 寓意と象徴	赤い繭	○	○	○	○	○	○											○	○									p. 277 ～292	A:0 B:4 計4
	掟の門	○	○	○	○	○	○											○	○										
	〈文学を読むために〉比喻と象徴	○																○	○	○									
4 随想(二) 情景を読む	となり町の山車のように	○	○	○	○	○	○											○	○									p. 293 ～316	A:5 B:6 計11
	鹿を追いかけて	○	○	○	○	○	○											○	○										
	[展開] かもしか	○	○	○	○	○												○	○										
	[書く] キーワードを決めて書く	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												
	〈文学の扉〉随想を味わう	○	○	○	○	○	○											○	○										
5 小説(三) 文体を味わう	美神	○	○	○	○	○	○											○	○									p. 317 ～336	A:2 B:4 計6
	待つ	○	○	○	○	○	○											○	○										
	〈文学を読むために〉文体と表現	○																○	○	○									
	[書く] 文体を工夫して書く	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○													
6 短歌・俳句 定型のもつ魅力	短歌 十三首	○	○	○	○	○												○	○									p. 337 ～348	A:3 B:3 計6
	俳句 十五句	○	○	○	○	○												○	○										
	[展開] 共感と驚異	○	○	○	○	○												○	○										
	〈文学を読むために〉短歌・俳句の修辞	○																○	○	○									
	[書く] 情景を短歌・俳句で表現する	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○													
7 評論 古典と日本文化	和歌の思想	○	○	○	○	○	○											○										p. 349 ～368	A:0 B:7 計7
	「遊び」の伝統	○	○	○	○	○	○											○											
	[展開] 古典の中の「遊び」	○	○	○	○	○	○											○		○	○	○	○	○	○	○	○		
8 小説(四) 時代と文学	舞姫	○	○	○	○	○	○											○	○									p. 369 ～408	A:0 B:15 計15
	〈文学の扉〉欧米への憧憬	○																○											
	雨傘	○	○	○	○	○	○											○	○										
	〈文学を読むために〉舞台設定と時代背景	○																○	○	○									
9 戯曲 演劇と文学	生き残ってしまった者の悲しみと想い	○	○	○	○	○												○	○	○	○					○	○	p. 409 ～428	A:4 B:5 計9
	父と暮せば(抜粋)	○	○	○	○	○												○	○							○	○		
	〈文学の扉〉文学と演劇	○	○	○	○	○												○								○	○		
	[書く] 物語を戯曲化する	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○													
付録・ 巻頭口絵・ 巻末付録	日本近現代文学史年表／ 文学に生きる言葉 文学の世界を探究しよう 作品の中の動物・植物／ 「山月記」の世界／「父と 暮せば」の世界／「舞姫」 の世界／「こころ」の世界	○	○																									p. 429 ～447, 巻頭1 ～3, 巻末① ～⑦	—

総計 140